

総合的な野生鳥獣被害対策の推進

「鳥獣被害対策の課題解決先進県」を目指して
更なるバージョンアップ!

ポイント

被害額の大幅な減少を目指し
モデル集落(被害0)での取組を県内全域に波及させる

これまでの取組(H24~)

成果

課題

今後の方針

27年度の取組

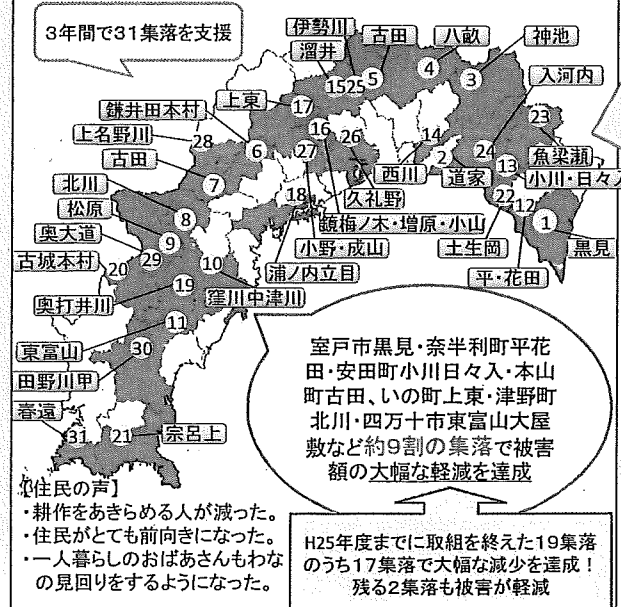
野生鳥獣に強い集落づくり

◆鳥獣被害対策専門員の配置 (H24~)
・地域における鳥獣対策の相談支援の窓口として専門員を配置 (現在9JAに12名)

◆野生鳥獣に強い集落づくり (H24~)
・モデル集落での総合的な対策を支援

目標

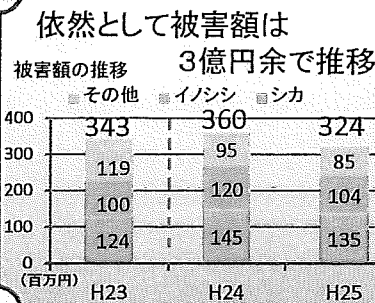
・野生鳥獣被害の軽減
・モデル集落での効果的な対策の確立



多くのモデル集落で被害0(ゼロ)を実現

「やればできる!」住民のやる気が芽生えた!

市町村と連携した着実な柵の設置による被害の減少



○モデル集落における成功事例の周辺への波及

◇鳥獣被害対策専門員の活動強化
◇鳥獣被害対策専門員の活動範囲に空白地帯が存在

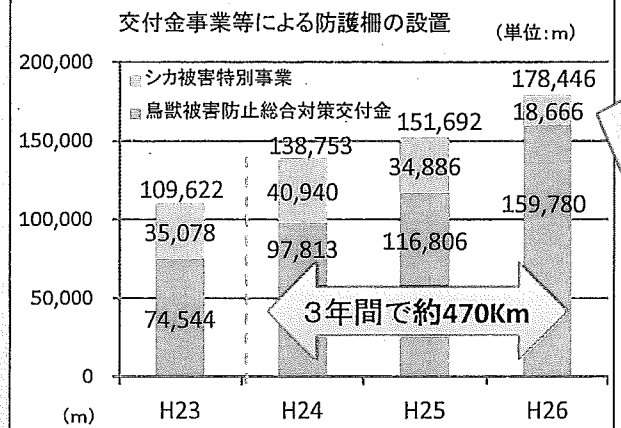
捕獲

○狩猟者の確保・育成
◆新規狩猟者の確保
・狩猟免許予備講習会や射撃教習経費への助成(H25~)
・狩猟フォーラムの開催
・狩猟免許試験受験機会の拡大

○捕獲の強化
◆集落ぐるみでの捕獲の推進
・くくりわなの配付(H25~) 現在9,000個を1,005集落に配付
◆捕獲報償金制度の充実
・シカ、イノシシに対する報償金の上乗せ
◆ジビエの普及

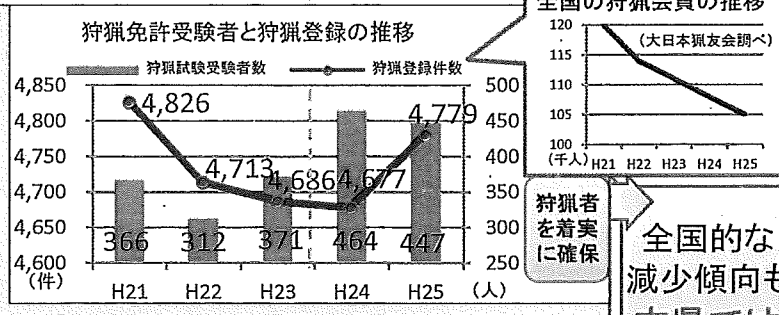
目標

・わな猟ハンター年間500人(3年間で1,500人)の確保
・シカ捕獲3万頭の達成



市町村と連携した着実な柵の設置による被害の減少

○防護柵の支援
◇これまでの対策では山菜などの作物に対応できていない
・国交付金は、費用対効果や受益戸数などの諸要件を満たす必要がある
◇シカ被害特別対策だけではなく、イノシシ・サル等も対応が必要



全国的な減少傾向も本県では増加!

捕獲数が大幅に増加

○シカ生息数 10万頭 → 今年12月に推計値(速報)
○シカ捕獲目標の見直し 生息頭数半減に向けた県計画の見直し

○狩猟者の確保・育成
◇狩猟者は増加しているが目標が未達成(わな猟ハンター3年間で1,155人)
◇農地だけでなく森林でのシカの捕獲強化が急務
◇ジビエの消費拡大に向けた安全性の確保と流通の仕組みづくり

○国交付金の活用できない農地等やイノシシ・サル等についても対象とし支援を実施

◆鳥獣被害対策市町村総合補助金
シカ(2/3)
イノシシ・サル等(1/2)
*1戸以上
*費用対効果1以下等

○狩猟者の確保と技術の底上げ

◆シカ捕獲推進事業 新規狩猟者へのわな配付やかけ方講習会等で狩猟者確保と技術力向上を推進

○森林でのシカ捕獲の強化

◆指定管理鳥獣捕獲等事業 事業実施計画を策定しシカの管理を抜本強化

○安心安全なジビエ提供の仕組みづくり

◆森林シカ捕獲技術開発事業 皆伐地等での効率的なシカ捕獲技術の開発

◆よさこいジビエ推進事業 安心安全な体制づくりの強化

三年後の目標

被害集落半減 + シカ捕獲3万頭の達成

○専門員の活動強化と空白地域の解消
○モデル集落での取り組みを周辺地域に拡大 (対象約1,000集落) *シカ・イノシシ・サルの被害が深刻な集落

○国交付金の活用できない農地等やイノシシ・サル等についても対象とし支援を実施

○狩猟者の確保と技術の底上げ
○森林でのシカ捕獲の強化
○安心安全なジビエ提供の仕組みづくり

